

# わの川だより

あおもりの川を愛する会

わの川だより 第11号

発行日：平成19年3月31日

## 水の大切さ

青森県県土整備部河川砂防課長  
田村 義行

平成18年度に8年ぶりに河川行政を担当することになりました。平成になってからは都市計画行政が長くなった訳ですが、それは皆さんもご承知の国内最大級の縄文集落跡である「三内丸山遺跡」を掘り当てたことによります。このことは、青森市安田にある県総合運動公園の拡張整備に伴い、平成4年度からはじまった野球場建設地の埋蔵文化財発掘調査により、明らかになりました。



この遺跡には、「大きい」「長い」「多い」という3つの特徴があります。「大きい」は約35haある遺跡・集落の規模です。しかも集落には、住居、倉庫、墓、道路、ごみ捨て場などが一定の場所に整然と作られ、計画的に土地利用がなされた集落でした。2番目の「長い」は、縄文時代前期中頃から中期（約5,500年前～4,000年前）までの間、少なくとも約1,500年間集落が営まれたという時間の長さです。

3番目の「多い」は、この遺跡が膨大な情報量を持っていることです。3年間の調査で段ボール約4万箱の遺物が出土していることをみてもその規模が想像できると思います。この社会を支えたものは、もちろん食料と水と燃料です。現代社会と通じるものは同じであると思います。集落が大きくそして長く続いた要因として、遺跡の周辺に沖館川のほか小さな沢がいくつか流れていたこと、森が適切に管理されていたこと、海に近かったこと等があげられます。しかし、やがて人口と資源のバランスが崩れ、人々はより条件の良い他の場所へと移っていったと言われています。

また、青森市街地を囲むように標高20～30mの地域には多くの縄文遺跡がありますが、共通しているのは近くに水が流れていて背後に森があることです。

いつの時代でも、水は様々な役割を担っており、われわれ人間を含め地球上の生命にとって欠かすことができない、貴重な資源としてあり続けています。

大都市圏では人々の暮らしと営みにより水環境の悪化が顕著になってきておりますが、本県においては豊かな自然が未だ多く残されております。



県では、現在、重点推進プロジェクトの一つとして、本県の恵まれた水環境を揺るぎない形で次世代に引き継ぐとともに、健全な水環境の下、本県の安全・安心な農林水産物の生産を図り、「攻めの農林水産業」を進めるため、「美しいふるさとの水循環推進プロジェクト」に取り組んでいます。水循環の健全化には、各個人レベルから行政まで、それぞれが同じ目標に向けて行動を積み重ねる必要があることから、水循環健全化の取り組みに関する県の基本的な考えを示すものとして「青森の水健全化プログラム」の策定を進めています。

### 目次:

水の大切さ	P1
平成18年度活動報告 サークル「母なる川」	P2
平成18年度活動報告 堤川を愛する会	〃
平成18年度活動報告 ジョイリバーおいらせ	P3
平成18年度活動報告 親しめる川づくりサークル	〃
箏の演奏会～箏の音 色で川をみる～	〃
イワナが安心して 産卵できる川づくり	P4
大畑川源流探索	〃
鳶川清掃活動	〃
河川文化講演会	〃
事務局より	〃

### ハイライト:

- 三内丸山遺跡の3つの特徴「大きい」「長い」「多い」とは？
- 「アムール川」、その名前が持つ由来とは！
- 活発に行われた平成19年度の各サークル活動について



本プログラムでは、「いい水、いい人、いい青森 水と人との循環社会」を理念として掲げています。いい水がいい人を育み、いい人がいい水を育むという好循環こそが優れた水環境を維持できるというものです。このため「豊かな水」「きれいな水」「水を大切に使う心」「水を汚さない心」を養っていくことを目指します。そして個人、団体、企業、行政がそれぞれの役割分担のもと具体的に行動することが求められます。

三内丸山に大規模集落のあった縄文時代の水環境はどうだったのでしょうか。水がこんこんと湧き、魚が群れ、子供は水と戯れていたのでしょうか。

あおもりの川を愛する会の会員の皆様におかれましては、本県の水循環の健全化のためより一層の御協力をお願いします。



三内丸山遺跡群

● サークル「母なる川」

平成18年度 活動報告

サークルリーダー 和島 隆志

五所川原

サークル「母なる川」では、今年度の活動として、平成18年7月24日にロシア極東のアムール川の視察をして来ました。

アムール川の中国名は黒龍江で、ロシア極東地域と中国東北地方の黒龍江省との境界になっています。北東に流れる川で、オホーツク海の間宮海峡に注いでいます。

長さは約4,440 kmで、世界で8位、流域面積でも世界で9位を占めています。川幅はハバロフスク付近では、約1.5 km~2 km、河口付近では40kmに達しています。深さの平均は5~6mで、最も深いところでは約100mです。

アムールという名称の由来については色々な説があるようです。大量の水という意味のヤムール、ツングース語の良い世界という意味のアムール、また、黒い川という意味のアムレニ等々、諸説あるようです。

流域地帯には、ナナイ人(ナナイ族)、ウリチ人、ニフヒ人等の北方少数民族が住んでいて、伝統的な漁業や毛皮産業に携わっているそうです。

今回訪れたハバロフスク州をはじめ、アムール川流域では河川輸送が発達しており、流域の工業都市には大量の貨物を荷役できる港があり、州内だけでなく、日本、中国、韓国等の間を河川・海洋両用船が結んでいるとのことでした。

サケ、マスをはじめとして沢山の魚が捕れ、漁業やレジャー等、人々は大川の恩恵を受けていますが、近年、水質の悪化が進み、特に上流部の中国での汚染物質の流出により、現在では、本流での漁の禁止、遊泳禁止等の措置がとられているそうです。

二カ国以上にまたがり流れることが多い大河、その事が原因で発生する問題を感じさせられた今回の視察でした。



ゆるやかな丘陵にある、  
清楚な街ハバロフスク



樹林帯を流れるアムール川

● 堤川を愛する会

平成18年度 活動報告

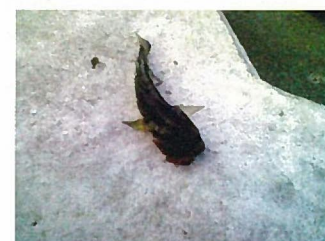
サークルリーダー 石川 克志

青森

平成18年10月21日に、横内川集水区域内での「ブナ植林地の観察会」および恒例の堤川での「ハゼ釣り大会」を行いました。ブナの成長はとても遅く、堤川を愛する会がブナの植樹に参加して6年が経ちますが、その当時植樹した苗木でも樹高1m程でした。ブナの簡単な年齢推定方法は、直径が40cmになるのに100年と見るそうです。

また、その後開催した「ハゼ釣り大会」は今年は大漁で、釣り糸を垂らすとすぐにハゼが食いついてきました。中にはハゼだけでなくカレイを釣った方もいました。

来年も川とのふれあいを大切に、いろいろチャレンジをして行きたいと思います。



堤川に生息するハゼ



## 十和田

## ●ジョイリバーおいらせ

平成18年度活動報告

リーダー 中野渡 悟

毎年「おいらせ知の会」と共同で実施している奥入瀬川の川くだりですが、会員が思いっきり川くだりを楽しめないまま子供たちのサポートを続けていたために本来の「自分たちが楽しむ」川くだりを実施できずにいました。

そこで今年は子供たちの参加を募集せず会員だけで実施することとなりました。もちろん子供たち参加のぶなの植樹は実施するので今年はそれでご勘弁と言うことです。そんなこんなで7月23日に川くだりを実施いたしました。

さて大人たちだけの川くだりですので今回は難コースである法量地区からのスタートとなりました。この区間は途中途中に堰があり岩も多くその割には水深が浅いため体力、技術を要す区間です。案の定転覆や根係りでびしょびしょになりながら楽しい川くだりとなりました。ただ今回のコースのようなところは、もう少し小さなラフティングボートのほうが良く反省会の話題となっていました。

総勢10人の参加を見た今回の川くだりは大変楽しく今度は違う河川で実施したいということで盛りりに終わることができました。



## 弘前

## ●親しめる川づくりサークル

平成18年度活動報告

リーダー 南 直之進

平成18年10月22日に「第3回土淵川せせらぎフェスタ」が開催され、弘前市内の土淵川の清掃活動が行われました。NPO団体をはじめとして近隣小中学校の児童生徒さん、そして周辺の町内会から約60名におよぶ多くの方のご参加がありました。

私たちが河川愛護里親となっている土淵川の徒橋から野田橋までの約1キロの区間にわたり、空き缶やタバコの吸殻を一つ一つ丁寧に拾い集めました。年々土淵川周辺のゴミが少なくなり、きれいになっているのがわかりました。

ゴミを集めたあとには、「せせらぎフェスタ」が行われました。フェスタの中では、土淵川をテーマにした絵画「土淵川三十六景」を展示したり、どの場所から描いた風景かをあてクイズが出題され大変な盛況となりました。また、恒例の棒パンつくりや動物たちとのふれあいを楽しんだ一日となりました。



土淵川での清掃風景



「土淵川三十六景」の展示

## ●箏の演奏会～箏の音色で川をみる～

あおもりの川を愛する会 事務局

平成18年5月20日に青森国際ホテルにて、箏（こと）奏者の大木かつ恵さんをお招きし「箏（こと）の演奏会」を開催しました。当初は定員先着70名でご案内していたのですが、当日は90名を越えるたくさんの方々にお越しいただき、大変盛況となりました。

今回の演奏会は「箏（こと）の音色で川をみる」というテーマで開催され、演奏頂いた曲目も「五十鈴川」「ロンドンの夜の雨」「すみだ川」と川や水にちなんだ曲が演奏されました。会場の皆さんは、大木さんの美しい箏の演奏にすっかり魅せられていました。



会場を魅了した大木さんの演奏の様子



## ●イワナが安心して産卵できる川づくり

あおもりの川を愛する会 事務局

平成18年6月～平成19年3月に（財）河川環境管理財団の河川整備基金助成を受け「イワナが安心して産卵できる川づくり」という事業を、奥入瀬溪流と合流する鳶川を対象に行いました。

9月に「イワナの勉強会」を開催し、10月に「現地調査」の実施、11月に「意見交換会」を行いました。現地調査では、実際にイワナの卵（産卵床）を確認することができ、その調査結果から、行政に提言できるもの、地域に提言できるもの等意見をまとめ報告書を作成しました。



イワナ産卵状況の確認

## ●大畑川（おおはたがわ）源流探索

あおもりの川を愛する会 事務局

今年で2年目となる大畑川の源流探索活動が、平成18年6月27日に開催されました。今年度は許可上の関係で昨年建立できなかった標柱を、あらためて現地に行き建立して来ました。当日は天候に恵まれ、建立の作業もスムーズにおこなうことが出来ました。



標柱を建立している様子

## ●平成18年度 鳶川（つたがわ）清掃活動

あおもりの川を愛する会 事務局

平成18年9月2日に、始めてから4回目となる鳶川の子清掃活動が行われました。今年度は120名と過去最高の参加人数でした。参加者が多いため上下流2グループに別れての清掃活動を行いました。参加者からは「毎年継続しているので、ゴミが減っている！」という意見も多数聞かれました。これからも継続して活動していければと思います。



鳶川清掃活動の様子



河川文化講演会の様子

## ●平成18年度 河川文化講演会

あおもりの川を愛する会 事務局

平成18年10月20日アピオあおもりにて（社）日本河川協会の近藤徹（こんどうとおる）会長をお招きし、「治水哲学の転換期」という演題で河川文化講演会を開催しました。当日は200名を越える参加者で、近藤会長の貴重なお話に熱心に耳を傾けていました。

## ●平成19年度 あおもりの川を愛する会総会のご案内

あおもりの川を愛する会 事務局

平成19年度の総会を5月19日（土）に予定しております。今回は、総会後に東北地方整備局長の坪香伸さんをお迎えしての講演会を予定しております。

ご繁忙中恐縮に存じますが万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。



## ●あおもりの川を愛する会 事務局より

「あおもりの川を愛する会」は今年で9年目を迎えました。会員数は3月31日現在294名です。今年度は河川整備基金を頂いた事業を中心に、さまざまな活動を行なうことができました。これからも会の活性化が図れるよう、頑張っていきたいと思っております。

あおもりの川を愛する会

【事務局】 〒030-0111  
青森県青森市荒川字柴田102-1

TEL:017-729-0922

FAX:017-739-6684

E-mail: kon-h@nishidagumi.co.jp